

7/18 工業会・高知県・産業振興センター 合同意見交換会を開催

本年度の意見交換会は、県からの産振計画Ver3の総括に対して、人材確保・育成、外部人材受入れ、海外展開、働き方改革などについて意見が交わされ、また企業立地に関する支援制度に対する要望など、活発な意見交換会となりました。なお、下図に第3期産振計画Ver4の展開図を示します。



■意見交換のテーマ

- ① 第3期高知県産業振興計画について
- ② 高知県版Society5.0の推進について
- ③ IoPの推進について

■第3期 高知県産業振興計画 Ver.4 概要 ～商工業分野の施策の展開～

柱3 絶え間ないものづくりへの挑戦

- ものづくり企業の製品開発の促進
- 生産性向上（省力化・高付加価値化）の推進

柱4 外商の加速化と海外展開の促進

- ものづくり地産地消外商センターによる外商促進
- 県内企業の海外展開等を促進

柱1 持続的な拡大再生産の好循環に向けた事業者の戦略策定と働き方改革の推進

柱2 Society5.0の実現に向けた産業集積と課題解決型産業創出の加速化

柱6 産業人材の育成・確保

- 人材確保の推進
- 人材の育成の促進
- 働き方改革の推進

柱5 企業立地や起業の促進

- 全庁一丸となった企業立地の推進
- 起業に取り組む事業者等への支援の強化

●“IoP（Internet of Plants）” が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化



最後にIoPの推進について、県農業振興部の岡林参事から環境制御技術の重要性、またIoPの研究による施設園芸関連産業の創出について熱く語っていただきました。取り組みの概要は以下の通りです。

■次世代からIoPによるNext次世代へ

園芸農業生産性日本一を誇る高知県の施設園芸農業の地位を確固たるものとするため、全国に先駆けてオランダの最先端技術を取り入れて普及を開始した「次世代型施設園芸システム」を、多様な園芸作物の生理・生育情報のAIによる可視化と利活用を実現する「IoP」等の最先端の研究により、「Next次世代型」として飛躍的に進化させる取り組み。

■7/24 働き方改革キックオフセミナー

主催 高知県/高知県地域活性化雇用創造プロジェクト推進協議会

本セミナーにおいて県内企業による取組事例として、(株)垣内の笹岡取締役総務部長様より、自社の働き方改革の取り組みについての事例発表がありました。働き方改革に関する発表項目は以下の通りです。

●働き方改革の取組み項目

- ① 非正規雇用の処遇改善
- ② 賃金の引上げと労働生産性の向上
- ③ 長時間労働の是正
- ④ 柔軟な働き方がしやすい環境整備
- ⑤ 女性・若者が活躍しやすい環境整備
- ⑥ 病気の治療と仕事の確立
- ⑦ 子育て・介護等と仕事の両立、障害者の就労
- ⑧ 雇用の吸収力・付加価値の高い産業への転換、再就職の支援
- ⑨ 高齢者の就労促進
- ⑩ 外国人材の受入れ



残業の上限規制

原則「月45時間、年360時間」、繁忙期などでも年720時間以内に制限。中小企業は来年4月から対象。

■7/24 プロフェッショナル人材活用セミナー ～プロ人材の活用事例紹介～

主催 (一社) 高知県移住促進・人材確保センター

本セミナーにおいてプロ人材の活用事例紹介として、(株)トミナガの島田社長様より、自社の取り組みについての事例発表がありました。

取り組みの概要及び雇用したプロ人材の声を以下に示します。

●(株)トミナガの取組み

- ・長年、工程管理・生産管理に従事してこれられたプロフェッショナル人材を採用。
- ・月のうち一週間という短期間での「プロジェクト型」のスタイルで顧問契約をしている。
- ・プロフェッショナル人材の活用により、若手人材の育成。生産管理システムの構築による納期短縮を実現！

●プロ人材の声

- ・常勤に限らず、月に一週間の出張勤務でも構わない、転居の必要がないことも顧問業務を受けた大きな判断基準となりました。



■ 6/18 高知高等技術学校との交流事業 “とさとーく” の開催

主催 高知県中小企業青年中央会（中央会の青年部）

青年中央会（会長は工業会理事の島田誠氏）の会員企業と高知高等技術学校の学生が本音で語り合うための交流事業を開催しました。

目的は、企業側は学生を理解する場として、また学生にとっては働くことを考えるきっかけとして、相互理解を深める場の提供を行うことにより雇用のミスマッチの低減や県内企業に目を向けてもらうきっかけとすることでした。

当日は、製造業、電気工事業、自動車整備業等の企業13社/14名が参加し、工業会からは匠和会の所属企業等7社/8名が参加しました。



■ 6/20～21 受注拡大委員会と産業振興センター連携 広島地区の企業を訪問

●目的：広島県の異業種企業連携グループ「ヤマトプロジェクト」との交流および三菱重工関係企業との共同受注に対するの視察調査であり、訪問メンバーは委員会企業3社/3名及び産業振興センター2名で訪問しました。

●6/20：「ヤマトプロジェクト」メンバー、（有）晟上工業の三浦社長を訪問。現状のグループの共同受注活動状況及び今後の交流について意見交換を行いました。次に、三菱重工交通機器エンジニアリング（株）を訪問し発注等の状況について意見を交わしました。

●6/21：三菱日立パワーシステムズ（株）と三菱重工コンプレッサー（株）の2社を訪問。三菱重工コンプレッサーは蒸気タービンが好調で機械加工及び製缶加工の新規外注先を開拓中であり、同社は8月1日と2日に調査のために来高しました。

以上4社の訪問から、共同受注に関しては各社とも関心が高く積極的であるが、受注側の核となる企業等の受け入れ態勢が課題となりそうである。

ヤマトプロジェクトとは

当時の最高峰の技術力を結集して広島県で誕生した「戦艦大和」に思いをはせて名付けたもの。

グループは西部地区10社、東部地区10社、各々の分野で高度な技術力とノウハウを持つ企業で構成。2019年設立。

≪編集後記≫

産振計画Ver4では新たにSociety5.0という聞きなれない言葉が出現。調べてみると「サイバー空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムにより経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会（Society）」。分かるようで？ 少し前には、似たようなインダストリー4.0（ドイツの施策）が・・・

広島県の企業訪問については、産振センターの酒井Coに何から何までお世話になりました。おれい申し上げます。

